

2021. 3. 27「さようなら原発宮城県民大集会」は延期となりましたが、発言予定者の方、および各地から連帯アピールが届いていますので、ここに掲載いたします。



主催 さようなら原発みやぎ実行委員会

●主催者あいさつ 篠原弘典さん（女川原発の再稼働を許さない！みやぎアクション世話人）

3月27日に開催予定にしていた「さようなら原発 宮城県民大集会」は、県内でコロナウイルス感染者が急拡大し村井知事が緊急事態宣言を発したため、昨年に続いて延期せざるを得なくなりました。

福島原発事故が発生してから10年が経ちました。10年経ちましたが未だに緊急事態宣言は出されたままですし、廃炉にする予定である事故原発はメルトダウンした燃料がどのような状態で何処に存在するかも不明なままで、何故水素爆発が次々と起こったのかの解明も尽くせないうえです。

事故直後16万人の人々が故郷を追われ避難せざるをえなくなりましたが、10年経って今もなお3万6千人余りが帰れないでいます。その一人一人の苦しみ悲しみの壮絶さを私たちは思います。それが今もなお世論調査で6割から7割の人々が再稼働に反対する民意を作っています。

しかし責任逃れをしようとする行政や電力会社は、事故から何も学ぼうとはせず再稼働に突き進んでいます。私たちはこの10年間「福島に寄り添い、フクシマを忘れない」を合言葉に宮城の運動を進めて来ました。コロナウイルス問題という困難な状況に直面してはいますが、10年の節目のこの3月、4月に取り組む連続した行動を準備して来ました。

村井知事の再稼働同意の表明は決して民意ではないことを、広くアピールして行きたいと思います。

●女川から 阿部律子さん（女川町町議会議員）

”女川原発再稼働の判断は県民投票で”と、こぞって「みんなで決める会」に結集し、県内では11万筆以上の署名を集めてくださいました。本当に励まされました。私たち女川町では1100筆以上（有権者比21%）の署名が集まりましたが、残念ながら県議会では自公などの数の力で否決されてしまいました。

また、女川町議会でも、再稼働反対は3人、賛成は8人となり再稼働賛成の意見書が通ってしまいました。町民からは「なぜ住民投票をしないのか」「なぜ議会だけで決めてしまうのか」「福島のような事故は絶対に起こらないと言い切れるのか」等の多くの怒りや不満の声が聞かれます。私たちは決してあきらめてはいません。再稼働まで少なくとも2年以上あります。東日本大震災の余震と言われる震度5強の地震がありました。今後も続くといわれており、「原発は大丈夫なのか」「早く原発をなくしてほしい」と、子育て中のお母さん方からも訴えられています。原発立地自治体の住民として「原発ゼロ基本法」実現のために皆さんと力を合わせて署名運動に取り組んでいきます。決して諦めず一緒にがんばりましょう。

●汚染廃棄物問題から 吉田洋一さん（大崎住民訴訟を支援する会副会長）

東京電力福島第一原子力発電所の事故で飛散した放射性セシウムによって、稲わら・牧草などが大量に汚染廃棄物になりました。環境省は8,000Bq/kg以下の汚染物の焼却を進めました（事故前は100Bq/kg以上の汚染物は厳重な隔離保管）。宮城県では仙台市と幾つかの自治体で住民に知らせることなく焼却されましたが、その後の焼却反対運動によって一部の自治体では焼却が回避されました。しかし大崎・仙南地域では本焼却を開始し、大崎市玉造焼却場周辺の住民の皆さんが焼却中止を要求して訴訟で闘っています。焼却を進める自治体では環境省の決めた方法で排ガスを検査し「放射性セシウムは検出されていない」と言い続けていますが、周辺の土壌中のセシウム濃度が上昇するなどセシウムが漏れている証拠がでており、裁判所が検査方法の不備を認めるように、原告団・弁護団・支援者が協力して取り組んでいます。原発事故による放射能汚染は農業関連の汚染廃棄物だけでなく、水道水浄水場の浄水汚泥（岩沼市）、草木類混在汚染土（丸森町）が大量に発生し、環境省の方針で自治体が薄めて土木資材で使用するなどの検討を計画しています。さらに汚染した山林を皆伐したバイオマス発電も始まっています。

環境省は、原発事故で発生した汚染物を「燃やす」「薄める」「埋める」などの方法で、「国民から見えなくし、事故は無かったようにしよう」としています。放射能を薄めて拡散することによって、リスクを大きくし、住民の平穏生活権を犯します。これを跳ね返しましょう。

女川原発再稼働反対の運動を共に進めて行きましょう。(2021. 3. 26 記)

●気候変動に取り組む若者から 池澤美月さん (Fridays For Future Sendai)

私たち Fridays For Future Sendai は仙台を中心に、気候変動や環境問題に取り組む若者の団体であり、原子力発電にも反対してきました。今、気候危機といわれる状況にあり、気候変動の影響が様々なところに出ています。日本では、最も二酸化炭素を排出する発電である石炭火力発電所が 15 基も新設される予定であるなど、気候変動対策がほぼとられていません。

そのような中、国が気候変動対策として進めようとしているのが原発です。私たちが気候変動対策を求めるのは、命や、自然や、未来を守るためです。気候変動対策として、被曝労働や核廃棄物、汚染水など、問題しかない原発を推進するのは看過できません。原発が差別の上に成り立ち、存在するべきでないのは明らかです。女川原発再稼働を容認した村井知事に、直接会うことを求めて県庁に参りましたが、拒まれました。駅前でのスタンディングなどで、抗議の声を上げ続けています。今後、若者の運動もより盛り上げ、原発のない社会、公正な社会を実現したいです。

●大内直子さん (色麻町町議会議員 女川原発再稼働ストップ! みやぎ女性議員有志の会)

東海第二原発の、再稼働を認めない判決が出た。その中身をざっくりいうと、①原発の安全性を高めるために、関係者はそれなりにやるべきことをやっている。②だからといって、原発は「絶対に安全」とは言えない。③ だから、「実行できる避難計画」が必要で、それが無い「原発再稼働」はダメ。誰も否定しようがない、明快な論理。ストーンと腑に落ちる内容。時代は確実に動いている。

毎日の暮らしに誠実に向き合い、考えることをあきらめないたくさんの人の力が、この宮城の地で、次の歴史の歯車をゴロンと動かすに違いない。

◆連帯アピール

●福島より

武藤類子さん (福島県三春町)

「STOP! 女川原発再稼働・さようなら原発宮城県民大集会」にご参加の皆さまへ

皆さま、こんにちは。福島県三春町在住の武藤類子です。女川原発の再稼働を止めるために、あらゆる努力を重ねていらっしゃる宮城の皆さまに、心から感謝と連帯の気持ちを送ります。

東京電力福島原発事故から 10 年の月日が経ちましたが、事故は未だ収束しておらず、「原子力緊急事態宣言」が発令されたままです。今年になって新たに、福島第一原発 2、3 号機の格納容器の蓋の部分が燃料デブリ並みの高線量であること、1、2 号機のベント用配管が排気塔の底部で途切れていた事が明らかになりました。先月の 3. 11 の余震では、1、3 号機の格納容器の水位が下がり、事故はまだ続いているのだということ強く思い起こさせます。事故の究明はまだまだなされていないのに、電力会社はどんどん原発の再稼働に突き進んでいます。安全を軽視する姿勢は何も変わっていません。福島第一原発は、廃炉のロードマップはあるのに、その廃炉の最終形というものがまだ何も決まっていません。廃炉は遠い道です。

原発事故にとっての 10 年は「たった 10 年」なのです。しかし被害者にとっての 10 年は途方もない長さで、重さがあります。原発避難者は国の発表だけで 3 万 6 千人、実際には 7 万人くらいいると言われてます。災害関連死は 2300 人を超え、災害復興住宅での孤独死や、自殺者の多さも問題になっています。事故直後に大量の放射性物質が福島県を超えて汚染しましたが、更に汚染水を意図的に海に流そうと計画されています。除染によって集められた汚染土は「再生資材」と名を変えて全国に拡散されようとしています。再生可能エネルギーの名目で、汚染された森林の木を燃やす木質バイオマス発電所が造られ、一方で、小児甲状腺がんの多発は原発事故と関連がないとして検査を縮小しようとする動きが強まっています。

被害者の苦しみと困難は今も続き、これからも続いていきます。福島原発事故の被害者は福島県民だけではなく。宮城でも被害にあった方々が大量にいます。日本海溝沿いの津波地震は今も高い確率であり、今、原発を止めなければ、また同じ悲劇を繰り返してしまいます。それだけは絶対に防がなければなりません。力を合せ、原発を止めましょう。核の悲劇に終止符を打ちましょう。一人一人の市民の力がそれを成し遂げるのだと、信じています。

●新潟より

一刻も早く、再稼働を阻止し、脱原発社会を目指しましょう

武本和幸さん（柏崎刈羽原発から2kmの農民）

1月、新潟は久々の大雪で、原発事故時に即時避難を強いられる5km圏2万人は家から出ることも車を出すこともできませんでした。改めて即時避難PAZの会を作り、避難計画を策定する県や市・村と新潟県の検証委員会に申入れを行ってきました。その最中の1月23日、中央制御室勤務の経験6年目の20代男性社員が、他人のIDを盗み、核防護ゲートをすり抜け入室していたこと、社員警備員は不正を承知でIDの書換え指示していたことが判明、大騒ぎとなりました。

その後、規制庁が東電の通報を放置、東電に原発運転の適格性があると規制委が判断していたことが判明、規制庁と東電は共犯だったこと、世界最高の規制機関と宣伝される規制委は、原発の再稼働を権威づける飾り物でしかないことを知りました。更田規制委員長は「報告は1月19日、知らずに認可した」と自己保身のコメント。

昨秋来、国と東電は柏崎刈羽原発7号機の、再稼働を目指し、規制基準適合認可を行い、原発事故の検証を続ける新潟県に圧力を加え、新潟県は技術委員会を高齢を理由に再任を拒否、東京商工会議所の柏崎訪問等で2021年夏の再稼働を画策していました。さらに、ID不正が議論される前に核防護施設の破損があったのに、規制庁は規制委に報告していなかったことが最近判明しました。

ID事件や核防護施設破損等一連の規制庁・規制委の対応が暴露されたことで、当面は、柏崎刈羽原発の早期再稼働計画は破綻したと考えます。

2月13日深夜、福島県沖地震(M7.3)で柏崎刈羽も震度4でした。東電は破損した福島第二原発3号機の建屋に設置した地震計の損傷を承知しながら修理せず放置、2月22日の規制委で問題になっています。

日本列島は原発と共存できないこと、電力会社は原子力発電を動かす資質がないこと、規制委・規制庁は原発擁護の飾り物でしかないことを共有し、「昔、愚かな者共が原発を造った」といえる日を迎えたい。

女川を抱える皆さんと一緒に、新潟で頑張ることを誓い、連帯の挨拶とします。

●茨城県東海村より 地震列島に原発はあってはならない

元東海村長 村上達也さん（1997年からJOC事故時を含め村長4期）

2019年11月「全国首長九条の会」が結成されました。川井貞一元白石市長、鹿野文永元鹿島台町長のお力に負うもので、「東北九条の会」の全国拡張版であります。

このように先進的で開明的な宮城県ですから、村井知事の下女川原発再稼働の動きが急進展していることに、被災原発東海第二の再稼働の動きのある元東海村長として心配しています。

住民の声を恐れ、政権と東北電力しか見ない村井知事や自公県議は己を恥ずべきです。住民投票を求める県民の声に耳を貸さず、女川原発の再稼働に固執している姿は傍らから見ても見苦しい。県民の意思を無視した原発の先行きは果たしてどうなるのでしょうか。

わが茨城県でもコロナ禍到来の中宮城県民に学び、10万人を超える署名を集め、東海第二原発の再稼働について県民投票条例の制定を求めましたが、自公と連合系議員らで反故にされてしまいました。

宮城県・石巻出身の辺見庸は最も尊敬している思想家ですが、彼は「いまここに在ることの恥」（角川文庫）の中で「日本のファシズムはナチスも羨んだぐらいで、天皇制という日本型の全民協調主義的ファシズムだ」と言っています。それは東日本大震災後の空気と安倍政権下で強まり今に続いており、その中で原発復権がなされてきています。

私は田中俊一前原子力規制委員長に、新規制基準下の再稼働は「何故PWR（加圧水型）が先行か」聞いてみました。彼の答は一言「P（加圧水型）は格納容器が大きい」と。つまり原発事故を前提として考えている。この場合格納容器の大きいPがB（沸騰水型）より安全ということ。女川は福島第一と同型のマークI型、その上地震で手負いの原発、話になりません。

本来、世界一、二の地震国に原発はあってはなりません。ましてや地震、津波で被災した女川、東海第二などの原発を再稼働させるなどは狂気の沙汰と思った方が間違いありません。

大震災と福島原発事故時、原子力委員長、原子力安全委員長2人も女川から東海までの14基全滅、東日本壊滅と言ったのですから、このことを忘れないようにしましょう。

東日本大震災以後世界の潮流は劇的に再生・持続可能なエネルギーにシフトしています。日本は地球一周遅れとか。このまま原発に固執して「本土決戦」「一億総玉砕」と原発と心中させられてはたまらない。再生可能エネルギーこそは東北地方の十八番と思うのですが、それを推進するべきです。

STOP！女川原発再稼働 さようなら原発 宮城県民大集会

集会アピール(案)

東日本大震災、そして福島原発事故から10年が経ちました。

10年前の今頃、私たち宮城県民の誰もが被災者でした。水を求め、食べ物を求め、大人も子どもも並んだ長蛇の列に、福島第一原発から飛来した放射能が降り注ぎました。後にそのことを知った大人たちは、子どもを並ばせたことをどんなに悔い、嘆き悲しんだことでしょうか。

隣県福島では、多くの人々が着の身着のままの避難を強いられ、転々とする間に家族や地域をバラバラにされ、そのまま永遠に故郷を失った人もありました。福島の人々の苦難は、原発事故が他の事故と比較にならない、破局的・壊滅的な被害をもたらすことを、私たちに教えています。

そこに何十年何百年も人が住めない土地が生まれ、人々のくらしや生業、故郷を根こそぎ奪い去る。何年もたってから健康影響が表れるのではないか、それは世代を超えるのではないか... という不安を人々に強いる。そんな、時空を超えた巨大災害をもたらす施設は、原発以外にないのです。

しかし、福島原発事故からなにも学んでいない村井宮城県知事は、昨年11月、女川原発2号機再稼働への「地元同意」を表明した上、その記者会見で「事故があったから駄目なら全ての乗り物も否定することになる」と述べました。

果たして「原発」という乗り物に、乗りたい人だけを乗せることが可能でしょうか。車や飛行機は移動の必要と事故のリスクを秤にかけて一人ひとりが選択して乗ります。それが原発においても可能であれば、乗りたくない人は、事故が起きても巻き添えにならずに済むでしょう。しかしこの「女川原発号」は、宮城県民はおろか、東北地方、東日本の人々、さらにはこれから生まれる未来の人々まで乗せて走る危険な乗り物です。知事がアクセルを踏めば、乗りたくない泣き叫ぶ県民も引きずり乗せて走り出すことを忘れてはならないのです。

河北新報の世論調査によれば、宮城県民の6~7割が「女川原発再稼働に反対」と回答しています。県民は福島原発事故からしっかりと学びとり、二度とあのような事故を繰り返してはならないと考えています。私たちは、この民意を一切排除して再稼働に同意表明した村井知事に強く抗議し、同意表明の撤回を求めます。

私たちは、福島原発事故から10年の節目に当たり、改めて福島の人々の苦難に思いをいたし、同じ東日本大震災を体験した宮城県民のつとめとして、被災地にある「被災原発」＝女川原発の再稼働を必ず止めなければならないと決意しています。

私たちの故郷を守るために、子ども達のいのちと未来を守るために、原発のない社会へ向けて、手をつないで進んでゆきましょう。

2021年3月27日

STOP！女川原発再稼働 さようなら原発宮城県民大集会 参加者一同

★カンパのお願い

私たちは女川原発が再び動かされることを許さない闘いを全県あげて取り組んでいきたいと考えております。具体的には、以下の3つのイベントを行います。そのための資金が必要です。ぜひ多くの方の賛同をお願いいたします。

①再稼働問題を訴える全県チラシ配布運動 ②延期になった集会・デモ ③4.18 シンポジウム
賛同金 個人/一口 1000円 団体/一口 3000円

※賛同金は、下記の口座にお振込いただくか、実行委員会メンバーにお渡しください。

【お振込先】 郵便振替口座 02280-2-135354

口座名 女川原発再稼働を許さないみやぎアクション

★賛同者・賛同団体 (2021年3月24日現在) 個人78人・団体39団体